

## 令和6年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

### 県北会場

#### 科目 ③LGBTQ への理解と誤解や偏見の解消

- ◆ 自分が思っていたよりも多くの人たちが苦しみ、悩んでいることを知りました。必要な対応として、「だれでもトイレ」や制服の多様化など、広がっています。関心と理解を深め、偏見や差別を解消し、共生社会を実現することが必要です。支援員として、一人ひとり違う個性やその暮らしさを尊重し、また、しっかりと知識を身につけて、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりができるように努めたいと思います。
- ◆ 自分と向き合い、たとえ与えられた性別と違った感情だとしても、自分の心に正直になること、それが人間らしく自由に生きることだと思います。男だから女だからと押しつけるのではなく、一人ひとりの個性を尊重し、自己決定を認め理解する社会・自分でありたいと思いました。子どもたちの中にも自身を理解できず悩んだり、言葉の暴力により傷ついたり、自信を無くすことがあると思います。あたたかい目で見守り、声かけをしていきたいです。
- ◆ 実際に悩む声や実体験を聞くことができとても勉強になりました。全てを知ること、そして理解することは難しいかもしれませんが、せめて、出会うことのできた目の前にいる人の話をまっすぐ聞けるような人間でありたいと思います。そのために、圧倒的に私に足りないのは知識なので、紹介いただいた本などに触れながら理解を深めていきたいと思います。また、個人的な話になりますが、来年、子どものランドセルを購入する予定です。本人の好み・好きなものを尊重し、本人が気に入ったランドセルを選んでほしいと思います。
- ◆ 自分を僕と呼ぶと宣言した女兒や、優しい話し言葉の長髪男児等が、他と違うことで指摘され笑われたりする現実が確かにあります。周囲に気づかれないように悩み苦しんでいるとしたならば、寄り添い、味方になれる“アライ”になりたいと思いました。ただ、悪気の無い言葉が時に相手を傷つけているのでは？と考えすぎて壁を作ってしまうことが無いように、自然に接することが必要だと感じました。
- ◆ 講義冒頭のランドセル選びの動画に今日の講義の意図が全て含まれているように感じました。何気ない周りの言葉で自らの思いや気持ちを表せずに困惑しているかもしれない子どもがいることを思うと、差別的なことに気をつけていたつもりではありましたが、日々発している言葉や掲示物など多様性を考えていたのか考えさせられました。9.7%のLGBTQの人は周りにはいるはずなので、まずは、自らが多様性を認める一歩を子どもたちへの接し方で伝えていきたいと思いました。